

## 大盛況！第22回「夏祭り」

7月7日(日)、22回目となる「夏祭り」が行われました。今年は、祭りを盛り上げようと、久しぶりにお父さん方のお神輿も出させていただきました。また子ども盆踊りでは、お父さんの太鼓やお母さんの笛もあって、祭りの雰囲気が一段と盛り上がりました。このお祭りのために、かなり前から、お母さん方も、仕事の合間の貴重な時間を割いて各ブースの準備をしていただきました。お陰様で子どもたちに、楽しい「夏の思い出」がたくさんできました。

本当にありがとうございました。



## 急がせずに待つ努力を

7月23日から25日間の「夏休み」が始まります。休み中は、当然、子どもと一緒にいる時間が多くなります。そこで、子どもの様子を見てつい言う言葉に「早く」があります。そんな時、どうすればいいのか、以前、ある評論家のコラムを読んだことがありましたので、その一部を掲載させていただきます。参考になれば

幸いです。

ある在日大使夫人が、日常生活の中で最も多く耳にし、気になった言葉が、「早く」だそうです。家庭でも学校でも、子どもに接する大人が頻繁に「早く、早く」と要求しているのを見聞きし、どうして日本の大人は、こんなにも子どもを急がせて、しつけや教育をするのだろうか、大変驚いたということです。

そう言われてみると、確かに私たち大人は、子どもに対して「早く〇〇しなさい」「もっと早くできないの？」などと、何事につけて急がせていることが多いことに気がつきます。

大人が子どもたちに言う言葉で、「言ってほしくない言葉」について、子どもたちに調査したところによると、「早く」と答えた子が、かなり多くいたそうです。その子たちに、どんな時に言ってほしくないかを質問したところ、「どれにしようか迷っているとき」「どういふふうにするか考えているとき」「失敗しないようにじっくり取り組んでいるとき」「自分でやる順番を決めて計画的にやっているとき」などと答えた子が多かったそうです。

子どもたちの答えから、気がつかれたかもしれませんが、現象面だけで子どもを捉えないで、子どもの立場になって、子どもの内面を大切に、共感的理解をした上で、言葉かけをすることが大事だと思います。このことに心がけていけば、「早く、早く」という言葉は自然に減って、反対に子どもを認め、やる気を持たせる言葉が出てくるのではないのでしょうか。急がせるとかえって緊張して遅くなったり、あわてて失敗したり、自信をなくすこともあります。

ドイツの教育哲学者ボルノーは、教育やしつけには三つの態度が不可欠だと強調しています。一つは期して待つ「期待」、二つは忍んで待つ「忍耐」、三つは信頼して待つ「希望」であると。

この子は、きっとこういう子に育ってくれるだろうと期待し、多少の回り道にもあせらず、急がせず待つてあげ、祈りに似た信頼の念で接していれば、必ずやそれに応えてくれるというのです。さて、みなさんはどうでしょうか。

※10月から保育料の無償化制度が始まります。すでに帯広市から関係書類の提出について、依頼文書が出ておりますが、保育要件を満たし、かつ10月以降の「預かり保育」の利用を希望される方は、2学期の始園式(8月19日)までに、7月18日にお配りしている「就労証明書」を、本園に提出してください。(注)証明書は両親分が必要です。

※保育無償化制度についての説明会は、8月2日(金)午後7時から、本園ホールで行いますので、ご参加ください。

※6月29日(土)に開催した「童謡まつり」は、今年も大盛況に終わることができました。本当にありがとうございました。ただ、残念なことに、終了後の会場内は、「飲食禁止」だったにもかかわらず、多くのごみが残っていたそうです。改めて、「マナー」について考えさせられました。

☆2学期の始園式は8月19日(月)です。森の子全員が、元気な笑顔で、登園してくれることを祈っています。もし、緊急の出来事が起きたら、幼稚園(Tel.48-8528)へ、つながらなかつた時は、各担任に連絡ください。では、楽しい夏休みをお過ごしください。